

山形・服部遺跡
はっとり

- 1 所在地 山形市大字中野字服部
- 2 調査期間 第二次調査 一九九九年(平11) 五月～十一月
- 3 発掘機関 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 渡部利之・水戸弘美・藤野周助
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(山形)

服部遺跡は、馬見ヶ崎川扇状地外縁部の自然堤防上に位置する。

北側に接する藤治屋敷遺跡は、検出遺構の内容から服部遺跡と一連と考えられる。両遺跡の微高地には、奈良・平安時代の掘立柱建物・土坑が集中し、その微高地を縫うように流れる河川が検出された。河川からは、古墳時代前期の土師器・木製品、奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。

木簡は、井戸SE一〇から五点出土した。SE一〇は、平面が二四〇cm×二一八cmの南北に長い楕円形で、北側に方形の掘り込みがある。断面はロート状で、深さは九六cmを測る。埋土は、下位の約七〇cmが人為堆積、細砂層を挟んで上位二〇cmが自然堆積である。泥炭化した最下層から、木簡五点と板状木製品一点が出土した。奈良・平安時代の河川埋土を掘り込むことや、周辺の遺構から一二世紀後半、一四世紀後半～一五世紀後半、一五世紀後半～一六世紀前半の遺物が出土しており、木簡の時期は中世と考えられる。

なお、奈良・平安時代の掘立柱建物周辺の溝・井戸・土坑・河川などから墨書土器三点が出土した。文字は「福」「胤」「成」「成」などから「吉」「新」「田」「川」などがある。

8 木簡の积文・内容

- | | | | |
|-----|---|--|-----|
| (1) | [☐ ☐ ☐] (絵) [☐ ☐ ☐] (絵) | [☐ ☐ ☐] (絵) | |
| (2) | [☐ ☐ ☐] (絵) 南天阿弥陀仏 | (325)×225×3 | 061 |
| (3) | [☐ ☐ ☐] (絵) 南天阿弥陀仏 | (326)×225×7 | 061 |
| (4) | [☐ ☐ ☐] (絵) 南天阿弥陀仏 | (354)×195×4 | 061 |

(5) 「くつろぎの南天阿弥陀仏」

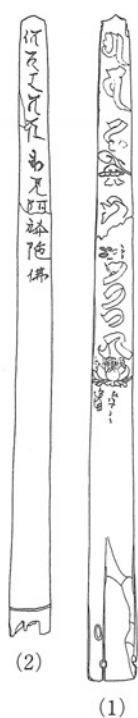
(295)×195×3 061

(1)~(5)は、笹塔婆である。上端は圭頭を呈し、下端は(1)以外破損している。材は、スギ材の柃目である。(1)は、上端に左右二段の切り込みが深く入り、裏面に段がある。下端に釘孔状の孔が三方所確認できる。表面の上半に梵字と蓮の絵、下半に文字三行が墨で書かれていると推定される。(2)~(5)は、上端に浅い切り込みが入り、表面に「空風火水地」を示す梵字と南無阿弥陀仏が墨で書かれている。なお、木簡の釈読にあたっては、山形大学の三上喜孝氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)山形県埋蔵文化財センター『服部遺跡・藤治屋敷遺跡第二次発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書一九、二〇〇四年)

(高桑弘美)



秋田・古川堀反町遺跡
ふるかわほりばたまち

- 1 所在地 秋田市千秋明徳町一丁目
- 2 調査期間 二〇〇五年(平17)三月~七月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 山村 剛・菊池 晋ほか
- 5 遺跡の種類 武家屋敷跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(秋 田)

古川堀反町遺跡は、秋田市街地の中心部に位置し、久保田城外堀の西側にあたる。今回の調査は、秋田中央警察署改築事業に伴うもので、調査面積は一六九〇㎡である。

遺跡の名称にもなった町名は、城下町建設期に堀替えをし、現在外堀となった旧旭川(古川)沿いにあることに由来する。江戸時代を通じて、家老職小野岡氏や根本氏をはじめとした上・